

話し合いで進める入門期日本語コースの開発

—言語・学習ストラテジの共有—

Development of Japanese Course through Discussion:

Sharing Language and Learning Strategies

佐藤 礼子・山元 啓史

SATO Reiko・YAMAMOTO Hilofumi

東京工業大学

Tokyo Institute of Technology

rsato@ila.titech.ac.jp

Abstract: A beginner-level class was designed to help students find strategies for their own individual learning styles. This paper reports on the structure of the class, the teaching materials, and the students' impressions. The purpose of this paper is to ascertain whether discussion contributes to finding a learning strategy that suits one's own learning style. Data will be presented through interviews with students regarding the impact of discussions on classroom activities, particularly the content and impressions of discussions among students. It will be recommended that discussion situations be incorporated into regular classroom activities so that individual learners can find their own appropriate way of learning.

キーワード：自己調整学習、入門期、他者への説明、自己省察、会話、ストラテジ

1. はじめに

学生個々の学び方に応じたストラテジを学生自身で見つけるための日本語入門期の留学生向け日本語コースを設計した。本稿では授業の構成、教材、学生の反応を報告する。近年「自ら学ぶ力」の重要性が高まっており、学習者が目標に向かって自らの学習を調整しながら能動的に学習する「自己調整学習」(Zimmerman, 1990)の概念が注目されている。目的や課題を共有する協働的学習が学習への気づきや共同での調整を促進することが指摘されている(Hadwin et al., 2011)。中級前半日本語学習者の読解授業で他者に内容説明する活動の効果が検討され、説明をさせるだけでは理解度の向上は期待できず、「より良く説明するにはどうすればよいか」というテーマで話し合いを行ったあとの説明活動において理解がより促進されることが示されている(佐藤, 2012)。

言語習得においても学習方法に関する話し合いを学習の初期に実施することは、その後続く学習への基礎として有効であろう。しかしながら、初級の学生に日本語による話し合いは現実的ではないことや総合日本語コースでは導入項目が多数であるため、初級の授業に学習方法に関わる話し合いを導入する試みや実務的な議論は多くなかったと見られる。

筆者らは自己調整的な日本語学習を日本語入門期に実施する授業を計画した。一緒に考える活動が学習への気づきを促進するかどうか、自分自身に合った方法を見つけることができるかどうかについて検討する。

2. 授業構成・内容・教材

開講授業名は、「日本文化演習1: ことばと文化」で、100分授業7回で実施されている。2017年度から前期と後期の年2回実施され、6年間で計

566名の留学生が受講した。2022年度はオンライン3クラス(19名、23名、10名)と対面2クラス(15名、14名)が開講された。日本語未習者が主に対象であり、来日直後に受講、初級日本語科目を同時に受講することも多い。

授業は表1に示した基本方針に従い、1.日本語と日本文化について話し合う演習(Strategic Japanese, SJ)、2.自然な日本語会話の演習(Natural speaking, NS)、3.生教材を用いた演習で構成される(表2)。受講者間で学び合うため、SJでは随時、NS・生教材演習では活動後に話し合いを行う(表3)。教材は、英語及びローマ字表記のタスクシートで構成される。教師は英語で話し、受講者もNS以外は英語を話す。宿題として、自然で理解可能なインプットに触れるためのディクテーション(佐藤他, 2022; Dictation for Everyday, D4E)と、授業内容や考えについて英語で答える課題があった。

表1 授業の基本方針

学習方法
1. 学び方について考えること
2. 他の学習者の学び方を知ること
3. 自分の学習方法を他の学習者に伝えること
内容重視
4. 毎日、実際の言語使用を継続すること
5. 内容重視の言語習得を実践すること
6. 内容理解のために文化の知識を習得すること
現実の言語
7. 現実の言語に即した使い方を多く学ぶこと
8. 比較的短い文の言い方を学ぶこと
9. 会話の本質について議論すること

表2 各回の授業の内容

Strategic Japanese	Natural speaking	生教材
--------------------	------------------	-----

1 学習ストラテジ、第一印象を述べる、会話の目的、学習機会	どこいった？	
2 形容詞	なにかはじめた？どう？	歌
3 動詞、シャドーイング、学習アプリ	いまじかんある？～しってる？	歌
4 日本の食文化(メニュー)を考える	よかった！(感想を言う)	ビデオ
5 あいづち。文化を語るための会話のストラテジを考える	もう見た？まだ	ビデオ
6 独り言。適切なスタイルを考える	食べ(に)いこ食べましょう	商品ラベル
7 教室外活動	なにしてる？	

表3 話し合い活動でのタスクシート内の話題例

第1回授業(第一印象、学習ストラテジ)	
SJ:	はじめての日本語の印象はどうか。
NS:	最もシンプルかつ自然に話すにはどうすればよいか。
生教材:	なぜ聞き取りは難しいか。
第5回授業(あいづち、会話のストラテジ)	
SJ:	会話を途切れなくするにはあいづち以外にどんなテクニックがあるか。
NS:	短く話してみた時には、どんな気持ちでしたか。上手に話せるようになるには、どんなテクニックやことばを追加すればよいか。
生教材:	ドラマを見る時に難しいポイントは何か。その難しさを克服するにはどうすればよいか。

3. 実施結果と考察

話し合い活動が言語学習に与えた影響、学んだこと、印象について、受講者の最終レポートから報告する(表4)。受講者は、本コースの目的が言語使用のために日本語学習方法や文化理解を学ぶことであることを認識していた(学習方法 1、2)。自然に言語を使用するためには言語への意識よりも内容を知りたい・伝えたいという動機のほうが重要だと理解していることがわかった(内容重視3~5)。Natural speakingで短い形を使って速やかに返答する練習をしたことで、負担が小さく、日本語への苦手意識が軽減されたようであった。日本語は比較的語順が自由な言語であること、適度に助詞の省略ができることから、話しやすい、自然に話せたと感じた学生もいた(現実の言語6~8)。

話し合いが十分に行われ、クラスメートから学びがあったと認識されていた(話し合い9,11)。目標言語である日本語ではなく比較的自由に表現できる英語で話すことで、リラックスした雰囲気となり、授業中の話題についてだけでなく日常の些細なことも語り合うことができたようだった(リラックスした雰囲気11,12)。

表4 コース実施後のレポートに見られた学生の反応

<学習方法:言語・学習ストラテジ>	
1.	日本語のストラテジと文化的なストラテジには強い関係があることがわかった。/2. 日本語の知識そのものよりも日本語で話すための多くのアプローチ、いくつかのヒント、アドバイス、提案を学ぶことができた。
<内容重視>	
3.	授業は実践的で、地域の人とうまく接触し、理解し、日本

で新しい生活に適応する方法を教えてください。/ 4. 実践的なアプローチが重要。歌を聴いて歌詞を考える、テレビ番組やアニメを理解しようとするのは、日本語学習を加速させる強力なテクニックだ。/5. 暗記や反復学習といった退屈な勉強ではなく、あらゆる問題に気軽に取り組むことで、直面している問題を別の角度から見るできるようになった。

<現実の言語>

6. 今まで学んだ日本語授業と違い、日常会話には難しい文法や語彙があまりないことがわかった。/7. 様々な場面で使われる短縮形や一般的な表現を知り、それに適切に対応することが必要。/8. フィラー、カジュアルな表現、リアクション、簡単な動詞の活用など、自然な形で話すには欠かせない。

<話し合い>

9. グループディスカッションで他者の視点を知ることができたのが興味深かった。多くのことを話し合った。/10. 日々のコミュニケーションは日本語の試験を受けるのとは違う。日本にいるのだから、先生やクラスメートとコミュニケーションをとることが重要だ。

<リラックスした雰囲気>

11. クラスの雰囲気はリラックスしていて、精神的な負担も少ない。D4Eやナチュラル・スピーキングなど、日本語や対話のスキルもしっかり学べた。/12. 日本文化や日本語を学ぶ方法はとても面白く、ストラテジックな学習だった。様々な文化圏の人たちと英語で授業を受けて、壁を乗り越えることができた。

4. おわりに

本コースの概要と学生レポートから実施の状況を報告した。今後は、詳細な教材の構造、学び方の態度変容について検討したい。通常の日本語授業においても学習方法等ストラテジに関するディスカッションを通して学習方法を共有し、自発的な発話を教室活動に利用するとよいだろう。

付記

本研究は科学研究費助成金(課題番号: 18K00711, 代表: 佐藤礼子)の助成を得た。

引用文献

佐藤礼子 (2012)「日本語の中級読解授業における説明活動を用いた理解の構造化の試み」『日本語教育方法研究会誌』Vol.19, No.1, pp.74-75.

佐藤礼子・榎原実香・小松翠・山元啓史 (2022)「日本語ディクテーションサイト(D4E)の開発」、『日本語教育方法研究会誌』, 第28巻, 第2号, 128-129.

Hadwin, A.F., Jarvela, S., & Miller, M. (2011) Self-regulated, co-regulated, and socially shared regulation of Learning, In *Handbook of Self-regulation of Learning and Performance* (pp.65-84). New York: Routledge.

Zimmerman, B.J. (1990) "Self-regulating academic learning and achievement: The emergence of a social cognitive perspective", *Educational Psychology Review*, Vol. 2, No. 2, pp. 173-201.